

神頭広好教授 研究略歴

- 1979年3月 学習院大学経済学部卒業
- 1981年3月 学習院大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 1985年3月 東京工業大学理工学研究科社会工学専攻博士後期課程単位取得
- 1985年4月 日本学術振興会奨励研究員（東京工業大学 深海研究室）
- 1986年4月 愛知大学法経学部専任講師
- 1988年4月 愛知大学法経学部助教授
- 1989年4月 愛知大学経営学部助教授
- 1994年～95年 レディング大学（UK）客員研究員
- 1996年4月 愛知大学経営学部教授

その他

- 2003年4月～2024年3月 経営総合科学研究所所長
- 2009年4月～2017年3月 経営学部経営学科長
- 2017年4月～2023年3月 日本観光学会会長

研究業績

A. 学術論文

1. 「首都圏における住宅立地構造の考察」
単著 修士論文、昭和 56 年 3 月
2. 「首都圏における住宅の立地特性分析」
単著 日交研シリーズ A - 74 日本交通政策研究会、昭和 56 年 11 月
3. 「レクリエーション地域における居住者のアメニティ魅力度分析」(奨励賞)
単著 『日本観光学会研究報告』第 14 号、昭和 59 年 11 月
4. 「東京都における住宅立地構造の特性分析－都市経済学的アプローチ－」
単著 『経済地理学年報』Vol.31, No.2、昭和 60 年 5 月
5. 「観光資源サービスに対する外部経済効果－観光旅行者行動の理論分析－」
単著 『日本観光学会研究報告』第 15 号、昭和 60 年 10 月
6. 「観光サービス集積モデル－ホテル立地論的アプローチ－」
単著 『日本観光学会研究報告』第 16 号昭和 61 年 11 月
7. 「三大都市圏における都市化過程に関する考察」
単著 『経済地理学年報』Vol.32, No.4、昭和 62 年 1 月
8. 「名古屋都市圏における都市化の集積経済に関する考察－商業立地モデルを中心として」
単著 『愛知大学法経論集創立 40 周年記念特輯』、昭和 62 年 2 月
9. 「愛知県地域成長モデルに関する考察 1－人口予測を中心にして－」
単著 『愛知大学法経論集経済・経営篇 2』、昭和 62 年 7 月
10. 「空間的都市化成長モデルに関する考察－愛知県をケーススタディとして－」
単著 『経営会計研究』第 49 号、昭和 62 年 10 月
11. 「愛知県地域成長モデルに関する考察 2－地域構造解析を中心にして－」
単著 『愛知大学法経論集経済・経営篇 2』第 115 号、昭和 63 年 1 月

研究業績

12. 「時空間的都市化成長モデルに関する研究」
単著 『愛知大学法経論集経済・経営篇2』第115号、昭和63年1月
13. 「英米仏日間道路整備効果－分析手法比較－」
共著 『研究報告』第33号、姫路短期大学、昭和63年、2月
14. 「情報及び政策の同時性を考慮した時空間的都市化度累積度モデル」
単著 『愛知大学法経論集経済・経営篇2』第116号、昭和63年3月
15. 『東三河の経済と社会第4輯』
共著 中部地方産業研究所、昭和63年3月
16. 「産業特化の時空間構造分析－愛知県地域を対象にして－」
単著 『経営会計研究』第51号、昭和63年11月
17. 「愛知県地域の構造分析－多変量解析手法の応用－」
単著 『中部地方産業研究所研究報告書』、平成元年3月
18. 「中部圏地域における産業特化の時空間構造分析」
単著 『経営会計研究』第53号、平成元年10月
19. 「名古屋都市圏における観光地域の空間的産業構造特性」
単著 『日本観光学会研究報告』第20号平成元年10月
20. 「空間的都市化成長モデル－わが国3大都市圏を対象にして－」
単著 『経済地理学年報』第35巻第4号、平成元年12月
21. 「空間的地価構造－モデル3大都市圏を対象にして－」
単著 『愛知経営論集』第120・121合併号、平成2年2月
22. 「3大都市圏の空間構造に関する応用研究」
単著 『愛知大学経営総合科学研究所叢書6』、平成2年4月
23. 「行動仮説に基づく重力タイプの地域効用モデル」
単著 『愛知経営論集』第122号、平成2年7月
24. 「CBD周辺における小売商店及び消費者に対する都市化経済の相対的スケールに関する空間モデル」
単著 『愛知経営論集』第124号、平成3年7月

25. 「わが国3大都市圏における住宅立地環境に関する特性分析」
単著 『経営総合科学』第57号、平成3年9月
26. 『都市・地域科学に関する研究論文集』
共著 経営総合科学研究所、平成3年12月
27. 「わが国3大都市圏における小売商店及び消費者に対する都市化経済の相対的スケールに関する空間的考察」
単著 『愛知経営論集』第125号、平成4年1月
28. 「わが国3大都市圏における地域の中心地点に関する幾何学的研究」
単著 『愛知経営論集』第126号、平成4年7月
29. 「シフトシェアモデルと空間的相互作用モデルの結合－東三河地域を対象にして－」
単著 『経営総合科学』第59号、平成4年10月
30. 「新都市経済モデルによる家計の均衡地代に関する実証的研究」
単著 『愛知経営論集』第127号、平成5年1月
31. 「製品価格付けケース別「相対的都市化経済規模」」
単著 『愛知経営論集』第128号、平成5年7月
32. 「3大都市圏都心部における都市化経済規模のシミュレーション分析」
単著 平成5年10月 『経営総合科学』第61号
33. 「わが国3大都市圏における空間構造」
単著 『経営総合科学研究所叢書10』、平成5年11月
34. 「観光と立地論－観光旅行者の行動と観光資源－」
共著 『青山経済論集』第45巻第4号、平成6年3月
35. 「リゾートマンションにおける居住者の景観効用に関するシミュレーション分析」
単著 『経営総合科学』第63号、平成6年10月
36. 「観光旅行者の観光資源に対する空間的魅力度」
共著 『地域学研究』第24巻第1号、平成6年12月

研究業績

37. 「四隣接正方領域を結ぶ交通網の最適利用とその効率」
共著 『数理解析研究所講究録 899』、平成 7 年 3 月
38. 「家計に対する景観水準を考慮した住宅立地モデル」
単著 『神戸学院経済論集』第 27 巻第 3 号、平成 7 年 12 月
39. Optimum Development Cost of Residential Area
単著 『愛知経営論集』第 133 号、平成 7 年 12 月
40. 「四隣接正方領域を結ぶ交通網の最適利用とその効率」
共著 『経営総合科学』第 66 号、平成 8 年 2 月
41. The Optimum Height Cost of Hotel Building in a Tourist City
単著 Journal of Tourism Research No.28、平成 8 年 5 月
42. 「観光都市のホテル立地モデル」
単著 『愛知経営論集』第 134 号、平成 8 年 7 月
43. 『観光と地域開発』
共著 内外出版、平成 8 年 10 月
44. 「多変量統計解析手法の覚え書き」
単著 『経営総合科学』第 67 号、平成 8 年 11 月
45. 「小さな都市における福祉厚生活動に対する経済的評価－ヘンリージョージの定理にもとづいて－」
単著 『HOSPITALIT』第 4 号、平成 9 年 3 月
46. Tourist Hotel Location
単著 Journal of Tourism Research No.30、平成 9 年 5 月
47. 「都市化の集積経済水準に関する空間的収入・費用関数」
単著 『愛知経営論集』第 135・136 合併号、平成 9 年 7 月
48. 「首都圏私鉄駅周辺地区に関する特性分析」
単著 『経営総合科学』第 69 号、平成 9 年 10 月
49. 「高速道路 IC 利用の県外観光旅行者がもたらす経済誘発効果－長野県を対象にして－」

- 共著 『日本観光学会誌』第 32 号、平成 10 年 5 月
50. 「計量分析にもとづく「まちづくり」－三好町を対象にして」
単著 『経営総合科学研究所叢書 17』、平成 10 年 9 月
51. Industrial Agglomeration Economies in City Centers
単著 『経営総合科学』第 71 号、平成 10 年 9 月
52. 「都市圏中心都市における集積経済にもとづく空間的企業構造」
単著 『愛知経営論集』第 140 号、平成 11 年 7 月
53. 「都市化の集積経済水準に関する空間的収入モデル」
単著 『交通学研究 1998 年研究年報』、平成 11 年 8 月
54. 「関西都市圏における都心部集積立地の空間的経済効果」
単著 『経営総合科学』第 73 号、平成 11 年 9 月
55. 「都市化の集積水準に関する空間的収入モデル－ 3 大都市圏の主要鉄道沿線駅周辺地区を対象にして－」
単著 『経営総合科学研究所叢書 19』、平成 11 年 11 月
56. 「高速道路 IC 利用の県外観光旅行者に関する産業連関分析モデル－長野県冬季オリンピック前後の経済誘発効果－」
単著 『愛知経営論集』第 142 号、平成 12 年 7 月
57. 『駅の空間経済分析－ 3 大都市圏の主要鉄道を対象にして－』
単著 古今書院、平成 12 年 9 月
58. 「観光における経済効果－愛知県豊根村を対象にして－」
単著 『日本観光学会誌』第 37 号、平成 12 年 12 月
59. 「高速道路 IC 利用の県外観光旅行者に関する産業連関分析－モデル長野県冬季オリンピック前後の年を対象にして－」
共著 『日本観光学会誌』第 37 号、平成 12 年 12 月
60. 『都市と地域の立地論－立地モデルの理論と応用』
単著 古今書院、平成 13 年 4 月
61. 「わが国大都市における情報サービス業の立地－ウェーバーモデルとネッ

トワークモデルの応用ー」

単著 『愛知経営論集』第144号、平成13年7月

62. 「わが国2大都市における情報サービス業の立地」

単著 『経営総合科学』第71号、平成13年9月

63. A Study on Tourism Gravity Model of Information

単著 Journal of Tourism Research No.39、平成13年12月

64. 「ホテル立地から見たサービス、時間距離および集積に関する経済評価ー札幌市、横浜市、名古屋市、京都市、神戸市および福岡市を対象にしてー」

単著 『愛知経営論集』第142号、平成14年7月

65. 「市場原理にもとづく駅の立地分析」

単著 『愛知経営論集』第142号、平成14年7月

66. 「観光の空間経済分析」

単著 『経営総合科学研究所叢書24』、平成14年9月

67. 「訪日海外旅行者がもたらす愛知万博の愛知県に対する経済効果」

共著 『日本観光学会誌』第37号、平成14年12月

68. 「国際観光旅行の空間的相互作用モデル」

単著 『日本観光学会誌』第37号、平成14年12月

69. 「中部新国際空港がもたらす愛知万博の経済効果」

共著 『日本観光学会誌』第42号、平成15年6月

70. 「ランク・サイズモデルが意味するものー観光地への応用」

単著 『日本観光学会誌』第43号、平成15年12月

71. 「情報と観光の空間分析ーランク・サイズモデルと経済理論ー」

単著 『経営総合科学研究所叢書25』、平成16年3月

72. 『(増補版) 都市と地域の立地論ー立地モデルの理論と応用ー』

単著 古今書院、平成16年7月

73. 「わが国が目指す観光立国ー指標および理論分析にもとづいてー」

単著 『日本観光学会誌』第45号、平成16年11月

74. 「情報サービス業におけるランク・サイズモデルと生産関数」
単著 『経済学論纂』中央大学経済学研究会、第45巻、平成17年3月
75. 「空間的市場構造と駅の立地」
単著 『中央大学経済研究所年報』第35号、平成17年5月
76. 「駅の立地に関する法則性」
単著 『愛知経営論集』第149号、平成18年2月
77. 「観光とまちづくり－長野県小布施町を対象にして－」
共著 『経営総合科学研究所叢書28』、平成18年4月
78. 「観光都市、大都市および集積の経済」
単著 『経営総合科学研究所叢書29』、平成18年4月
79. 「観光都市の規模と性格－地方公共財の理論にもとづいて－」
単著 『日本観光学会誌』第47号、平成18年6月
80. 「北陸地域のまちづくり研究－富山市を対象にして－」
共著 『経営総合科学研究所叢書30』、平成19年4月
81. 「都市、交通およびニュータウンの立地－平面幾何学の応用－」
単著 『経営総合科学研究所叢書31』、平成19年6月
82. 「円形都市を有する都市圏構造－平面幾何学とランク・サイズモデルの応用－」
単著 『愛知経営論集』第152号、平成20年2月
83. 「中部地域のまちづくり－主に長野県東信地域を対象にして－」
共著 『経営総合科学研究所叢書32』、平成20年3月
84. 「都市の立地と幾何学－新しい立地論の方向性－」
単著 『経営総合科学研究所叢書33』、平成20年5月
85. 「観光都市の集積・内生的成長モデル」
単著 『日本観光学会誌』第49号、平成20年6月
86. 「静岡県における商圈および消費者行動の意識特性」
共著 『経営総合科学』第91号、平成20年9月

研究業績

- 87.『(増補版) 都市の空間経済立地論－立地モデルの理論と応用－』
単著 古今書院、平成 21 年 3 月
- 88.「観光とまちづくり－岩国市、尾道市を中心にして－」
共著 『経営総合科学研究所叢書 34』、平成 21 年 3 月
- 89.「コンビニエンスストアの立地－愛知県を対象にして－」
単著 『経営総合科学』第 92 号、平成 21 年 10 月
- 90.「コンパクトシティ都市圏の構想に向けて－幾何学から見た都市圏の定義」
単著 『経営総合科学』第 93 号、平成 22 年 2 月
- 91.「観光と産業のまちづくり－主に諏訪・岡谷を対象にして－」
共著 『経営総合科学研究所叢書 35』、平成 22 年 3 月
- 92.『経済地理学の成果と課題 VII』
共著 日本経済評論社、平成 22 年 4 月
- 93.「住宅地を対象にしたショッピングセンターの広告圏モデル」
単著 平成 22 年 9 月 『経営総合科学』第 94 号
- 94.「住宅立地モデルにもとづく空間構造分析」
共著 『経営総合科学』第 94 号、平成 22 年 9 月
- 95.「ショッピングセンターの広告圏再考と新聞販売所の立地」
単著 『経営総合科学』第 95 号、平成 23 年 2 月
- 96.「日本の空港と国際観光」
共著 『経営総合科学研究所叢書 36』、平成 23 年 3 月
- 97.「都市の立地構造－幾何学、地理学および集積経済からの発想－」
単著 『経営総合科学研究所叢書 37』、平成 23 年 3 月
- 98.「集積および交通にもとづく観光都市の合併による経済効果」
単著 『交通学研究 2010 年研究年報』、平成 23 年 3 月
- 99.「ショッピングセンターの商圈と広告圏に関する比較分析」
単著 『愛知経営論集』第 164 号、平成 23 年 7 月
- 100.「訪日外国人旅行者の満足度に関する特性分析」

- 共著 『愛知経営論集』第 164 号、平成 23 年 7 月
101. 「わが国 3 大都市圏都心部における集積の空間的経済効果」
共著 『経営総合科学』第 96 号、平成 23 年 9 月
102. 「コンパクトシティにおけるレジャー施設の立地」
単著 『日本観光学会誌』第 52 号、平成 23 年 9 月
103. 「都市の形成、市場および集積の経済」
単著 『経営総合科学研究所叢書 38』、平成 24 年 2 月
104. 「大都市圏における都市開発の空間的法則性」
共著 『愛知経営論集』第 165 号、平成 24 年 7 月
105. 「都市化の集積経済効果と空間距離」
単著 『経営総合科学研究所叢書 41』、平成 25 年 2 月
106. 「日本における水辺のまちづくり－蟹江町、柳川市、香取市を対象にして－」
共著 『経営総合科学研究所叢書 42』、平成 25 年 3 月
107. 「都市の秩序と複雑性」
単著 『経営総合科学』第 100 号、平成 25 年 10 月
108. 「観光都市と複雑性」(学会賞)
単著 『日本観光学会誌』第 54 号、平成 25 年 12 月
109. 「大都市圏におけるホテル立地モデル」
単著 『経営総合科学』第 101 号、平成 25 年 10 月
110. 「日本における水辺のまちづくり II－近江八幡市および松江市を対象にして－」
共著 『経営総合科学研究所叢書 43』、平成 26 年 3 月
111. 「都市化の集積型企業と地域特化型企業に関する市場圏モデル」
単著 『神戸学院大学経営論集』第 11 巻、第 1 号、平成 26 年 9 月
112. 「都市の時空間モデル－都市の創出時間と成立の時間－」
単著 『経営総合科学』第 102 号、平成 26 年 10 月
113. 「大都市圏におけるホテルの立地構造」

研究業績

- 共著 『日本観光学会誌』第 55 号、平成 26 年 12 月
114. 「岐阜県高山のまちづくり」
共著 『経営総合科学研究所叢書 45』、平成 27 年 3 月
115. 「大都市圏における駅勢圏の空間的構造」
共著 『地域学研究』第 45 巻第 1 号、平成 27 年 8 月
116. 「商業立地と商圈モデル」
単著 『経営総合科学』第 102 号、平成 27 年 9 月
117. 「経済史・経営史分析における時空間モデルの構築に向けて」
共著 『経営総合科学』第 102 号、平成 27 年 9 月
118. 「わが国の男女雇用にもとづく地域生産に関する研究」
共著 『経営総合科学』第 105 号、平成 28 年 2 月
119. 「日本におけるアウトレットモールの空間分析」
共著 『経営総合科学研究所叢書 47』、平成 28 年 3 月
120. 「宇宙物理学の都市空間への応用」
単著 『経営総合科学研究所叢書 48』、平成 28 年 12 月
121. 「商圈としてのリピート圏に関する研究」
単著 『経営総合科学』第 107 号、平成 29 年 9 月
122. 「観光とホテルの立地」
単著 『経営総合科学研究所叢書 52』、令和元年 3 月
123. 「労働の規模と空間距離」
共著 『経営総合科学』第 111 号、令和元年 9 月
124. 'City System Based on the Rank-Size rule' "Locational Analysis of Firms' Activities from a Strategic Perspective" Springer, 2018 年 9 月
125. 「秩序にもとづく都市圏における正方形の都市の構造」
単著 『中央大学経済学論纂』第 60 巻、第 3・4 号令和 2 年 1 月
126. 「中京大都市圏における空間構造分析」
共著 『経営総合科学研究所叢書 53』、令和 2 年 10 月

127. 「大都市圏における観光の外部性－観光における都市の成長モデルの構築と実証分析－」
共著 『経営総合科学』第 113 号、令和 2 年 3 月
128. 「初等数学によるリーマン予想の一証明」
単著 令和 2 年 10 月 『経営総合科学』第 113 号
129. 「ゴールドバッハ予想の一証明」
単著 『経営総合科学』第 113 号、令和 2 年 10 月
130. 「B-N (ベーシック－ノンベーシック) 分析にもとづく駅の特性分析」
単著 『経営総合科学』第 114 号、令和 3 年 2 月
131. 「観光と都市の方向性」
共著 『経営総合科学研究所叢書 55』、令和 3 年 3 月
132. 「リニア中央新幹線の時間による経済価値」
共著 『愛知大学三遠南信連携研究センター紀要』第 7 号、令和 3 年 7 月
133. Space and Order of Four Colors
単著 『経営総合科学研究所叢書 57』、令和 4 年 1 月
134. 「シュレディンガー波動方程式にもとづく都市圏の人口変動モデル」
単著 『経営総合科学』第 117 号、令和 4 年 10 月
135. 「ABC 予想への回帰－AC 塗装、準 ABC 予想および平均公式にもとづいて－」
単著 『経営総合科学』第 117 号、令和 4 年 10 月
136. 「数と色をつなぐペイント理論－フェルマーの最終定理、四色問題、ABC 予想－」
単著 『経営総合科学』第 118 号、令和 5 年 3 月
137. 「数と色をつなぐペイント理論」
単著 『経営総合科学研究所叢書 60』、令和 5 年 7 月

注) ここでの研究業績には、論文、いくつかの研究ノートおよびテキストが含まれている。
また、叢書の共著において、単独の論文がほとんど含まれている。

B. その他

1. 「東京電力（株）新京葉大田線建設に関する地域社会、経済的波及効果等調査」
共著、内田和夫他、昭和 57 年 6 月、(財) 都市経済研究所
2. 「道路整備の効果分析手法の再検討」
共著、岡野行秀他、昭和 58 年 3 月、"B.5, No.57-1 (財) 道路経済研究所 "
3. 「道路整備の効果分析手法の再検討 (II)」
共著、岡野行秀他、昭和 59 年 3 月、"B.6, No.58-1 (財) 道路経済研究所 "
4. IIASA (International Institute for Applied Systems Analysis)
共訳、川嶋辰彦他、昭和 59 年 3 月 (「研究報告書要約速報」第 10 巻、IIASA 日本委員会)
5. 「道路交通需要の将来予測－シナリオ比較分析－」
共著、川嶋辰彦他、昭和 59 年 11 月、国民道路白書シリーズ 7、No.59 (財) 道路経済研究所
6. 「道路整備の効果分析手法の再検討 (III)」
共著、太田勝敏他、昭和 60 年 3 月、No.59-1 (財) 道路経済研究所
7. 「道路整備費用便益分析手法の国際比較－英、仏、米、日間マニュアル比較－」
共著、石川修一、昭和 60 年 7 月夏期号、「道路交通経済」(財) 経済調査会
8. 「道路整備の効果分析手法の再検討 (IV)」
共著、大田勝敏他、昭和 61 年 6 月、(財) 道路経済研究所
9. 『都市近郊地域の経済と社会－三好町・東郷町・日進町を対象に－』
共著、松江 宏他、平成 3 年 3 月、中部地方産業研究所
10. 「名古屋港と地域経済－産業連関表による経済波及効果分析－」
共著、赤城国臣他、平成 3 年 6 月、名古屋港管理組合
11. 『企業行動と環境変化』
共訳、石川利治他、平成 9 年 11 月、大明堂
12. 『観光学辞典』
一部執筆、平成 9 年 12 月、同文館

13. 「山間地域の内発的発展とネットワーク化実現可能性に関する調査報告書」
共著、福井幹彦他、平成10年3月、中部地方産業研究所
14. 「三好町まちづくりの方向性－地域科学からの発想－」
単著、平成10年4月、名古屋トヨペット株式会社
15. 『地域における内発的発展の実現可能性をめぐって』
共著、平成11年2月、中部地方産業研究所
16. 『最新地理学用語辞典』
一部執筆、平成14年11月、大明堂
17. 「観光都市の構造特性」
愛知大学大学院リレー講演会、平成20年10月

私の回想録

神 頭 広 好

長野県生まれで、小学校は自宅の近くにありましたが、行き方が分からず、授業では先生の言われていることも全然理解できなく、他のことを考えていた記憶がございます。おそらく、知能がかなり遅れていたのではないのでしょうか。今でもそうですが。

小学生から高校生の頃まで、気温の寒暖差からか気管支喘息を患い、好きな幾何学しか勉強しなかったこともありまして、受験とはほど遠い人生を歩むこととなります。

そのお陰で、直観力が芽生え、自由という有難さを享受できました。これが研究生活の精神的な出発点となります。

文系の大学に入ると、大胆にも数式一本で人間の行動や都市の構造が説明できないかと考えはじめ、大学院ではまず都市経済学の分野における立地論を勉強することになります。また、これから必要とされる多変量解析を学び、それを都市へ応用した修士論文を書きました。当時大型コンピュータが主流の時代であり、パンチカードにデータを打ち込む時代でありましたので、打ち間違えると大変な作業でありました。さらに、理論と解析の研究を発展させるために理系の大学院へ進みました。この間、都市や地域などを研究する学会の先生方とも親しくなり、とりわけ経済地理学および立地論の研究に携わっておられる先生方が所属されている日本観光学会に入会しました。そこでは大変暖かく見守って頂き、愛知大学へ就職することができました。

愛知大学では、研究費にも恵まれ、当時はコマ数も少なく、休講数もそれほ

ど制限がありませんでしたので、ほぼ自由に研究することができました。当時高価であった Mac を手に入れ、直観力を生かした論文を量産することになります。私は自分の世界に入ることが好きで、湧いてくるアイデアをすぐに残すために論文を書き続けますが、それらを広めようとする気はありませんでしたので地位や名声とは無縁でした。私のような人間はギリシャ時代に生きた方があったのかも知れませんが、このような点から、比較にはなりません、アインシュタイン先生の生き方に共感を覚える次第です。

私は「自由」が好きで、色々な人間がいるから社会が成り立っていると考え、学生に腹を立てることはそれほどありませんでした。思い出に残ることと言えば、愛大白樺ロッジでのゼミ合宿です。

もう一つの研究、教育活動と言えば、社会人大学院生と留学生との思い出です。院生は真剣に講義を聞いてくれますし、お盆や正月なども返上して授業をした覚えがあります。毎週講義のあとでの食事会が楽しみでした。また、一緒に遠方の学会へ発表に行くことも楽しみでした。

これまでを振り返りますと、豊橋校舎、車道校舎、三好校舎、笹島校舎を通じて、思い出がつきません。その中でも経営総合科学研究所の企画で毎年行われている視察旅行は、移動の楽しさのみならず、企業家の人柄に触れることでたいへん勉強になりました。

本当に、出会った皆様方のおかげで悔いのないすばらしい人生を送ることができました。

退職後は、旅行はもちろんですが、自称ペイント理論を完成させて、それを使って数学の難問に挑戦していきたいと考えています。

この場を借りて、これまで私を支えてくれた家族をはじめ、お世話になった先生方、大学関係者、すべての友人に対して謝意を表します。

最後に、退職記念号を企画して頂いた本研究所の運営委員の方々にお礼を申し上げます。